

四月十二日

海軍

. 0330

四月十二日

海軍大臣

第三艦隊司令長官

雉ノ遭難ハ如何ニ任務中ニ起リニヤ單獨若クハ編隊航行中
ナリニヤ當時ノ模様一ト通リ電報アリタシ

海軍

四月十二日

第三艦隊司令長官

海軍次官へ送電

難ノ曹難ハ三十一日(大潮)午前五時頃ニシテ夜間ノ警戒戒務
 ラ了リ軍獨帰航中ニ起リモナリ當時天候平穩一乃至
 ニ東風約一海里半ノ潮流アリ満潮時前約二時三十分
 ナリシ般ハ神崎燈台ヲ右舷正横約五鐘ニ見テ針路ヲ西
 北西ニ定メタルモ尚ホ東方ニ偏スルヲ覺知シタルヲ以テ更ニ西微
 北ニ變シ午前五時ヲ續航シ今時雄龍良山ト云クノ瀬ノ一
 線ヲ通過シタリト信シ針路ヲ右轉セントス際速力十二節ニテ
 坐標シタルモノナリ

海軍

0332

14.2

四月十五日

海

軍

0333

省報

二十日頃沖繩丸其地到着、上六成ルハク速ニ海底線、延長工事
ニ着手セシムヘキ旨聯合艦隊司令長官へ命令シ置ケルニ付貴
官ハ聯合艦隊司令長官、指揮ヲ受テ該工事ヲ監督ニ任スヘシ
而テ第一回敷設ノトキハ其外端ヲ海洋島又ハ外長山列島附
近、海面ニ留メ置キ沖繩丸ハ直ニ揚武所在地ニ面航シ残り
實線ヲ積移シテ第二回、敷設ニ差障ナキ様準備セシムルヲ要
ス

部長

増田大尉

四月十五日午後二時五分
東京

0334

電報(暗号)

沖繩丸ハ十七日長崎ヲ出發シ其地へ回航ノ筈ニ付到着ノ上ハ
成ルヘク速ニ白翎島ヨリ先キ延長工事ニ着手セシメ其端ハ
海洋島附近海面便宜ノ位置ニ留メ置ラヘシ
右工事終ル速ニ揚武ニ在ル海底電線ヲ沖繩丸ニ積移シス
必要ナク付適宜ノ援助ヲ与ヘ積移シラ了セシムヘシ
増田海軍大尉ニ貴官ヲ指揮ヲ受ケ右海底線延長工事ヲ監
督スヘキ旨ヲ訓令シ置ラリ

部長

聯合艦隊司令長官

四月十五日午後二時五五分電

0336

明治三十七年四月十五日

參謀總長

侯爵大山巖

海軍軍令部長

子爵伊東祐亨

左之通奉仰

允裁候

第二軍、聯合艦隊協同

作戰ノ方針

一本協同作戰ノ目的ハ先ツ遼東半島ノ地頭ヲ占領シ爾

後ノ作戰ニ應スル根據地ヲ作成セントスルニ在リ

二第二軍ハ先ツ大同江下流ニ集合シ機ヲ見テ發進シ遼東

半島ノ南岸塩太澳ヨリ大沙河河口ニ亘ル海岸ニ上陸

セシメントス

0338

三聯合艦隊ハ一面朝鮮海峡ヲ扼シテ浦塩斯徳ニ在ル敵ノ
 分艦隊ニ備ハ一面旅順口ニ在ル敵ノ主力艦隊ヲ制壓シ
 弟二軍ノ輸送及上陸ヲ掩護セシメントス
 四弟二軍ノ大同江集合地ヨリ上陸地點ニ至ル海上ノ運
 動ハ聯合艦隊司令長官ヲシテ之ヲ指示セシメントス

0339

大海訓第三號

訓令

一敵艦隊ノ主力ハ旅順口ニ其支隊ハ浦塩斯德ニ在リ
二陸上ニ於ケル敵情ハ大概左ノ如シ

旅順口要塞ノ砲臺ハ逐次完成シツ、アルモノ、如

該要塞ノ遊動防禦兵ハ狙撃步兵約一旅

團(ハ乃至十二大隊)ヲ基幹トスル兵力ナラン

青泥窪殊ニ其埠頭並ニ柳樹瓦附近ニ諸

種ノ地雷ヲ埋設シアルモノ、如シ

金州城及其南方三吉米ノ高地附近ニ防禦工

事ヲ施シ殊ニ該高地上ニ重砲六門ヲ和尙島

方面ニ對シテ配備シタルモノ、如シ

青泥窪ヨリ小平島ノ北方ヲ經テ旅順口ニ至

海岸道路ハ已ニ成工シ砲車ヲ通スルニ至レリト
云フ

大連灣ヨリ鴨綠江口ニ亘ル海岸ノ諸要地ニハ

ハ部隊(何レモ三百名ヲ超ハス)ヲ分置セリ

敵ハ目下其大兵團ヲ遼陽蓋平及鳳凰城

附近ニ集中シツアルモノ、如ク又營口ニ海陸

ニ對シ防備ヲ施シタルコト殆ント明瞭ナリ

復州及普蘭店附近ニモ亦敵ノ一部隊アリ

奉天ヲ經テ南下スル敵ノ鐵道輸送力ハ目下

ノトコロ一日平均六列車ニシテ毎日歩兵三個大

隊ニ相當スル兵力ヲ輸送シ得ルモノ、如シ

三我第一軍ハ韓國平壤肅川附近ヨリ鴨綠江ノ元

岸ニ向ヒ前進シ其先頭部隊ハ四月八日義州附

(久保田印行)

近ニ達セリ而シテ江ノ左岸ニ軍ノ闕進ヲ終ルハ四月
十八日ノ豫定ナリ

四 聯合艦隊ハ敵ノ主力ヲ旅順口ニ制壓シ同時ニ朝
鮮海峽ヲ扼シテ敵ノ支隊ニ備ヘ第二軍ヲ遼東
半島ニ上陸セルメ陸海相應シテ北ハ普蘭店ヨ
リ大沙河ヲ亘ル線ヨリ南ハ金州青泥窪附近ニ
至ル地區ノ占領ヲ固フニ大連灣附近ニ確實ナル根
拠地ヲ作ルヲ目的トスヘシ但シ大海令第一號及大
海令第六號ニ示ス聯合艦隊ノ主目的ハ變更セ
サルモトス

五 第二軍ノ編制輸送及上陸ノ順序等ハ別冊第二
軍作戰計畫ニ示ス如クニシテ其第一次輸送船隊
(約七十二隻)ノ大同江下流ニ集合シ終ル期日ハ四

月三十日ト豫定ス

六第二軍ノ上陸地點ヲ塩太澳ヨリ大沙河口ニ直ル
沿岸トシ爲レ得ル限リ急速ニ上陸ヲ遂行セント
ス

第一次輸送船隊大同江ニ到着セハ聯合艦隊司令長官ハ最先ノ好機ヲ於テ逐次上陸地點ニ進
メ上陸ヲ開始セシムヘシ

七大同江ヨリ上陸地點ニ至ル海上輸送並ニ第二
軍上陸ノ諸動作ニ関レテハ聯合艦隊司令長
官ハ第二軍司令官及上陸地碇泊場司令官
ノ協議ニ應ジ成ルヘク之ヲ援助スヘシ

八聯合艦隊司令長官ハ第二軍ノ輸送並ニ上
陸ヲ掩護シ又爲レ得ル努メラテ上陸地點外

久保田印行

0343

ノ諸要地ヲ倂攻威嚇レ以テ第三軍ノ作戰ヲ容
易ナラシムルコトヲ圖ルヘシ

九白翎島ヨリ大長山島ヲ經テ上陸地點ニ延長
スヘキ海底電線ノ敷設開始ノ時機大長山島
ニ於ケル揚陸地點及通信所ノ位置等聯合
艦隊司令長官之ヲ指示スヘシ但シ此電信線工
事ハ第三軍ノ上陸ト同時通信レ得ル如ク着手
セラルヲ要ス

明治三十七年四月十九日

東京大本營ニ於テ

海軍軍令部長子爵伊東祐亨

聯合艦隊司令長官東御平八郎殿

海軍

(久保田印行)

0345

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

案

第二軍聯合艦隊協同作戰方針別紙ノ通御
裁可相成候條此旨心得

二十七年四月十五日

部長

聯合艦隊司令長官宛

大海訓第三號

ノ二

海

軍

(資料番号)

0346

大海訓第三号別紙

明治三十七年四月十三日

第二軍作戰計畫

第二附表

0347

(明治三十四年四月十二日)

Yokohama, 12th April, 1904.

To His Excellency

The Vice-Minister of Marine

Tokyo

Sir,

We beg to make application for permission for Mr. Seppings Wright to join a battleship or cruiser during operations in the immediate or near future.

Mr. Wright, who has just arrived in Japan from England, has come out on special business on behalf of Messrs

0349

Sir W. G. Armstrong, Mitchell & Co.
 Ltd., Newcastle-upon-Tyne, and me, as
 well as our friends at Elswick, will
 esteem it a great favour if you can
 accord him the desired permission.

We have the honour to be,

Sir,

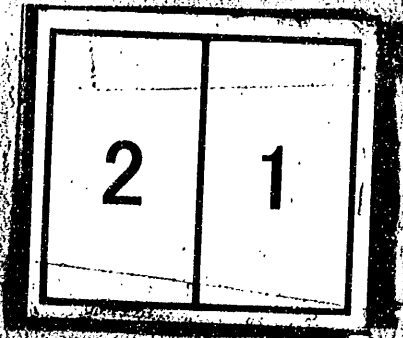
Your most obedient Servants,
 Jardine, Matheson & Co.
 Pitt-Inding Bell

本件高田慎蔵の経手によるものなり
 明治 11 年 11 月 1 日
 高田 慎蔵

ノ求メニ應ニ難キモ他日許サル機会アラハ英公使
經由願出ヘク高田迄回答ニ置ケリ尚詳細ハ軍令
部次長申済

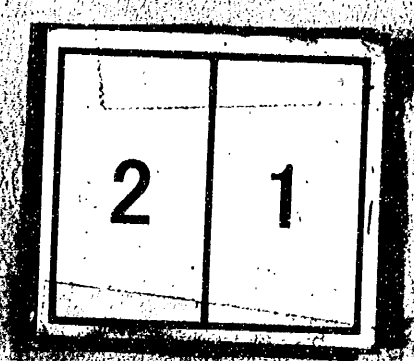
0351

分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

品		字		坂大		品	
第 三 師 團 輜 重 大 部		(大 部 重 輜) 第 四 師 團		第 一 師 團 (大 部 重 輜)		第 一 師 團 (大 部 重 輜)	
野戰病院二個	輜重兵大隊	砲兵聯隊二縱列	砲兵聯隊二縱列	野戰病院二個	輜重兵大隊	野戰病院二個	輜重兵大隊
一五〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一七〇	一五〇	一七〇
五	五	五	五	五	五	五	五
野戰病院二個	輜重兵大隊	砲兵聯隊二縱列	砲兵聯隊二縱列	野戰病院二個	輜重兵大隊	野戰病院二個	輜重兵大隊
一五〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一七〇	一五〇	一七〇
五	五	五	五	五	五	五	五
野戰病院二個	輜重兵大隊	砲兵聯隊二縱列	砲兵聯隊二縱列	野戰病院二個	輜重兵大隊	野戰病院二個	輜重兵大隊
一五〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一七〇	一五〇	一七〇
五	五	五	五	五	五	五	五
野戰病院二個	輜重兵大隊	砲兵聯隊二縱列	砲兵聯隊二縱列	野戰病院二個	輜重兵大隊	野戰病院二個	輜重兵大隊
一五〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一七〇	一五〇	一七〇
五	五	五	五	五	五	五	五
野戰病院二個	輜重兵大隊	砲兵聯隊二縱列	砲兵聯隊二縱列	野戰病院二個	輜重兵大隊	野戰病院二個	輜重兵大隊
一五〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一七〇	一五〇	一七〇
五	五	五	五	五	五	五	五

分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A3版以上のため</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

附表第二

第二軍第一回輸送部隊上陸順序及日次豫定表

日次區分	部	隊	人員	馬匹	摘要
第一日	工兵第三大隊				第一日、各部隊、火行李等直接搬載、關心必要キモノヲ除キ、本欄順序ヨリ完成、多クノ部隊ヲ陸揚スルニ要ス、第一日、除ケタル火行李等、第二日、陸揚スルニ要ス。
第一日	工兵第一大隊(一中隊欠)				
第一日	步兵第十七旅團				
第一日	野戰砲兵第三聯隊本部及第一大隊(中隊欠)		一四三六六		
第一日	第三師團司令部(一部)		二〇三八		
第一日	步兵第五旅團				
第一日	工兵第一大隊第三中隊				
第一日	野戰砲兵第三聯隊第三中隊及第一大隊				
第一日	野戰砲兵第三聯隊聯隊隊列				
第一日	第三師團衛生隊				
第二日	第三師團補助輸卒一隊		七、七、七		
第二日	第三師團司令部(殘余)		二、一、五、四		
第二日	第二軍司令部				
第二日	步兵第一旅團				
第二日	騎兵第三聯隊第一中隊				
第三日	騎兵第三聯隊(一中隊欠)				
第三日	第三師團補助輸卒一隊				
第三日	野戰砲兵第一聯隊本部及第一大隊				
第三日	第一師團司令部		五、一、五、一		
第三日	步兵第二旅團司令部		一、五、四、九		
第三日	步兵第二聯隊				
第三日	第三師團野戰電信隊				
第三日	同歩砲彈藥各一縱列				
第四日	野戰砲兵第一聯隊第二大隊				
第四日	同	聯隊隊列			
第四日	第一師團歩砲彈藥各一縱列		二〇六三		
第四日	同	衛生隊	一〇九三		
第六日	第三師團野戰病院二個				
第六日	同	補助輸卒一隊			
第七日	步兵第十九旅團		一〇、九、七、七		
第七日	第四師團司令部		九、三、六		
第七日	步兵第七旅團(一中隊欠)				
第七日	步兵第三聯隊第一大隊				
第七日	野戰砲兵第一旅團司令部		二、三〇、二		
第七日	同	第三聯隊	一、二、四、三		
第七日	同	聯隊隊列			

0356 0355

備考	第十一日	第十日	第九日	第八日	第七日	第六日	第五日	第四日	第三日
<p>一日以上陸開始より第一日 二人馬員教ハ概教</p>	<p>第一師團野戰病院二個 騎兵第一聯隊 野戰砲兵第一旅團彈藥二隊列</p>	<p>同 聯隊隊列 步兵第三聯隊第三大隊 野戰砲兵第二聯隊</p>	<p>同 聯隊隊列 步兵第三聯隊本部及第二大隊 野戰砲兵第十四聯隊</p>	<p>同 聯隊隊列 步兵第三聯隊 野戰砲兵第一旅團司令部</p>	<p>步兵第十九旅團 第四師團司令部 步兵第七旅團(二大隊)</p>	<p>同 衛生隊 第三師團野戰病院二個 補助輸卒一隊</p>	<p>同 聯隊隊列 野戰砲兵第一聯隊第二大隊 第三師團野戰電信隊 同歩砲彈藥各一隊列</p>	<p>騎兵第三聯隊(一中隊又) 第三師團補助輸卒一隊 野戰砲兵第一聯隊本部及第一大隊 第一師團司令部 步兵第二旅團司令部 步兵第二聯隊</p>	<p>步兵第一旅團 騎兵第三聯隊第一中隊</p>
	<p>六〇三九 一三三〇</p>	<p>六〇三九 一三三〇</p>	<p>六二九一 一二三八</p>	<p>六三〇二 一二四三</p>	<p>一〇九六七 九三六</p>	<p>六〇六三 一〇九三</p>	<p>兵一五一 一五四九</p>		
	<p>本欄、部隊(聯隊)都合上若干日陸地到着後ハヨリ</p>								

案

別紙之通第二軍司令官之訓令相成候條此旨
心得一也

二十七年四月十五日

部長

聯合艦隊司令長官宛

大海訓第三號

ノ三

海

軍

(附東京文)

0357

第二軍司令官へ與ふ訓令

一、敗殘ノ敵ノ艦隊ハ尚旅順口ニ在リ

二、旅順要塞ノ未成砲臺ニ逐次完成セラルモノ、知ク又諸種ノ情報

ヲ綜合スルハ該要塞ノ遊動防禦兵ハ粗勢ヲ步兵約一旅團ハ

乃至十二大隊ノヲ基幹トセル兵力ナリ

青泥窪殊ニ其埠頭并柳樹屯附近ニ諸種ノ地雷ヲ埋設シ

其灣内ニ水雷ヲ沈設シタルモノ、知レ

二三ノ情報ニ依リ、敵ハ金州城及其南方ニ吉米ノ高地附近

ニ防禦工事ヲ施シ殊ニ該高地上ニ重砲六門ヲ和尙島

方面ニ對シテ配備シタル者、知レ

青泥窪ヨリ小平島、北方ヲ經テ旅順ニ至ル海岸道ハ已度

効シ砲車ヲ通スルニ至リトス

大連灣、金州及青泥窪注ニ在リ、東部西伯利粗勢ヲ步兵東

四旅團、首才ハ鳳凰城方面ニ招致セラレタルモノハ、

大連灣ヨリ鴨綠江口ニ至ル海岸ノ諸要地ニ多數ノ小

部隊(多クモ三百人位)ヲ配置セリ

三、敵ハ目下^其大兵團ヲ遼陽、蓋平及鳳凰城附近ニ集中シ、

アルモノ、如ク又營口ニ海陸ニ對シテ防備ヲ施シタルコト殆ビト

明瞭ナリ

復州及普蘭店附近ニモ敵ノ一部隊アリ

奉天ヲ南下スル敵ノ鐵道輸送力ハ目下ノ處一日平均六

列車ニシテ步兵三個大隊ニ相當スル兵力ヲ輸送シ得

モノ、如シ

四、我第一軍ハ韓國平壤蕭川附近ヨリ鴨綠江ノ左岸ニ向テ前

進シ其先頭部隊ハ四月八日義州附近ニ達セリ而シテ江左

岸ニ軍ヲ開進ヲ終ルハ四月十八日ノ豫定ナリ

五、第二軍ヲシテ遼東半島ノ塩六澳ヨリ大沙河カクニ自ル海岸ニ

上陸セシム其目的ハ北ハ普蘭店ヨリ大沙河ニ自ル線南ハ金

州青泥窪附近ヲ領有シ之ニ依リテ大連灣附近ニ確實ニ根

據地ヲ成形シ爾後第一軍ト策應シ敵ヲ求メテ之ヲ攻撃スル

ニ在リ

獨立師團ハ第一第二軍ノ中間ニ運動シ情況ニ應ジテ第一若ク

ハ第二軍ト協同動作ヲ為スルメ大孤山附近ニ上陸セシム豫

定ナリ

六、前項自的ヲ達スル爲メ第二軍ノ海上輸送及上陸當初運

動ハ別冊作戰計畫第二ニ規畫セラレタリ

此作戰計畫ハ運動ノ指針タルヲ以テ第二軍司令官ハ船舶

輸送ニ影響セザル限リ之ヲ變更スルモ妨ケナシ

七、大同江ノ下流ニ於テハ運船ノ集合ニ關シテハ運輸通信長

官ヲシテ指示セシメ集合後ニ於テ海上ノ運動ニ関シテ聯合艦
隊司令長官ノ指示セル所ニ従ヒ又上陸ノ諸動作ニ関シテハ
聯合艦隊司令長官、幸碇泊場司令官ト協議スヘシ
ハ、海底電線ハ韓國白翎島(實海道之西角ニ在リ)ヨリ延長
シ大長山島ヲ經テ上陸地ニ向テ設ケルノ豫定ナリ

明治三十七年 月 日

參謀總長 奉

(艦隊其他往復文書)

四月十五日午後九時十五分發

次長

聯合艦隊長官宛

陸軍通信艦ハシニゲル水道へ出シ置カサルコトナリタルニ
付今後同水道附近ヲ通航スル陸軍輸送艦ニ必要ナル情報
ヲ此ツルニハ入口浦加島島信号所ニ於テスル様取計ハレタ
送艦隊運動程式ハ佐世保鎮守府ヨリ送付セ

海軍

(71113A.4)

0362

(艦隊其他往復文書)

答電

電報

防材八海里、四月三十日マテニ艦隊所在地、到達セシムルキ
様佐鎮長官ノ命令相成タリ

大本營海軍幕僚

聯合艦隊參謀長宛

海軍

(信)北京

0363

四月十六日

海

軍

(留)

0364

大政謀略第六四號第二

明治三十七年四月十六日

參謀總長侯爵大山巖

海軍大臣部長子爵伊東祐亨殿

大海機密第八九号ヲ以テ協議ノ件具存無
之候也

大海機密第八九號ノ二

一

宣

0365

大海機密第八九號

大山參謀總長ノ協議案

三十七年四月十六日

下關ニ派遣シタル門司臨時敷設隊ヲ原所屬ニ復歸セシメ度
及協議候也

三十七年四月十六日

軍令部長

0367

聯長官宛

(暗号)

次長

第二軍ヲ塩太澳以東大沙河以西ノ地ニ上陸
セシメ遼東半島ノ地頭ヲ占領シ根拠地ヲ
作成セシメカ爲メ陸海協同作戰ノ方針勅定
セララル 訓令并ニ附屬書類ヲ携帶セシメ
山下高水ノ兩參謀ヲ貴艦隊ニ派遣ス兩人
ハ十七日午後一時横須賀發日本丸ニテ直航
ス

第二軍輸送船隊ヲ大同江ニ集合ヲ終ルハ本月
末日迄ナリ

四月十六日午後二時癸電着

海軍

(清海軍部)

0368

四月十七日

. 0369

以下ハ協賛面卷ヲ
得ルニ後悉ク一

下関戦時指揮官新井晴簡(余令(電報))

大海令第八號

三十七年四月十七日

其地ニ派遣シテ門司臨時敷設隊ヲ原所屬ニ復歸セシム(其

海

軍

輸送ニ関シテハ兵鎮守府司令長官ヲシテ直接貴官ニ交渉セ

シム

軍令部長

大海令第八號ノ二

柴山兵鎮守府司令長官(余令(電報))三十七年四月十七日

門司臨時敷設隊ヲ原所屬ニ復歸セシム(ナ有下関戦時指揮

官(余令セリ貴官ハ下関戦時指揮官ニ交渉シ該隊ノ輸送

ヲ行フ)

軍令部長

大海機密第八九號ノ三

大山參謀長(通報案) 三十七年四月十七日

門司臨時敷設隊復歸ノ件ニ付別紙ノ通リ新井下関戦時指揮

官(余令候条及通報候也)

別紙ニ関戦時指揮官ノ命令

軍令部長

四月十七日午前十時半 電話済 (少)

0371

四月十七日午後六時半電報附

舞鶴鎮守府司令長官へ命令(電報) 三十七年四月十七日

第三艦隊第三艦隊編入を以て之を以て準備出来次第
行敷二回港セリ

軍令部長

第三艦隊司令長官へ訓令(電報) 三十七年四月十七日

聯合艦隊司令長官 各通

第三艦隊第三艦隊編入を以て之を以て準備出来次第
行敷二回航スル様命令セリ

0373

軍令部長

海軍省

0374

四月十八日

0375

(1)

(艦隊其他往復文書)

四月十八日午前十一時廿分發

受信者 吳鎮長官

受信者 軍令部長

電報譯

明司臨時水雷敷設隊ヲ原所属復歸セシムルキ
件下、開戦時指揮官ニ命令スミナルヤ

海軍

(海軍省)

0376

(2)

門司臨時水雷敷設隊原所屬復歸ノ件命令書

用紙

四月十八日午下。附寸用電紙

(艦隊其他信其大書)

海軍

(發行北政申)

. 0377

(艦隊其他往復文書)

四月十八日午後

二時五分作敷登
四時半
着

發信者 作敷西港部司令官

受信者 軍令部長

電報譯

六十一号水雷艇目下任務ニ差支ナキ天早晚汽機動作
部ノ小部分(?)及推進器ノ軸引抜き振査、必要ヲ軸
杆(?)入換工事完結期限内ニ施行ニ置ク方得、東直心
考ス工事ニ都合七日ヲ要スルノ間任務ニ差支ユ着年セシ
ノ宜シキヤ

海

軍

(原封電報)

0378

(艦隊其他往復文書)

四月十八日午後四時三十分發

發信者 舞鶴長官

受信者 軍令部長

電報譯

四十七号水雷艇第二水雷艇艇渠ニ入ル未二十四日出渠ノ事

四十九号水雷艇第一艇渠ニ入ル未二十六日出渠ノ事

(附村北原)

0379

艦隊進出(通報)

電報案

四月十八日午後七時發電函

本年一月米澤本部、調査に依り浦塩、固足防禦、要害砲台約三
千七百水雷兵百九十工兵百三十五電信隊一隊あり

四月十日、於て敵状に付、米澤本部、判定、依り浦塩、よ兵一五二午
五百、おしエント附近、騎兵若干隻申スルカ如し

本月十日、元山、東島朝日社、在り電了

昨日浦塩、二名慶興、一名甲山、一名、韓人歸來、其談

ヲ綜合、浦塩、過り砲撃、或る砲台、身カ、擄奪、受ケ、

士氣一般、沮喪、居民堵、安カス、其三分ノ二、既、逃亡、軍

務、為事、日本軍攻、束リテ、抗敵、能ハサトキ、市街、焼拂

テ、満州、退却、一物、無敵、手、妻、スバカラスト、訓令、四隻、軍

艦、昼間、港外、出、夜間、必ス、港内、彼等、唯、頼ト

0380

スルハ砲台多日本艦隊ノ砲撃ヲセラレシ砲台ニ朝鮮人ヲ督シテ
 鹿撃ヲ設ケシメ居シリ尤モ糧食ハ未ダ乏シカラズ物價ハ二割方ノ騰
 貴ニ過キズ兵數ハ兩敵ホ比シ増ハ模様ナシ國境ノウキイリス
 ヲニアル兵數モ千名ニ足ラズ呂若平ノ山砲ヲ巨滿江岸ノ某地
 点ニ集メ居ルニシ

少長

第二艦隊司令長官

(松本館)

0381

（新電報）

電報

鐵製水船二隻又上申
アシハ 詮議ノ上製
造セシムヘキ内意アリ
設計豫美上申
セウシテハ如何
至急

四月十八日 中野 恭謀

佐鎮

黒井 恭謀宛

海軍

0382